

CONTENTS

1 … グローバル・ダイバーシティ研究者育成事業
活動概要紹介 (令和2年度)

2~3 … 国際研究活動支援プログラム 利用者の声

3 … 英文校閲経費支援制度 利用者の声

4 … TOPICS (INFORMATION)

令和2年度 グローバル・ダイバーシティ研究者育成事業

活動概要紹介

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」に、本学提案の「千葉大学グローバル・ダイバーシティ研究者育成事業」が選定されました。令和2年度の取り組みの一部をご紹介します。



石丸研究室 (大学院 看護学研究院)

撮影では一時的にマスクを外していますが、取材は、マスクを着用の上、感染対策を取って行いました。

グローバル研究力向上

国際研究活動支援プログラム

利用者1名/申請者2名
利用者の声→2・3ページに掲載

英文校閲経費支援制度

利用者17名/申請者32名
利用者の声→3ページに掲載

グローバルスキルアップ研修

研究者のためのアカデミック英会話
基礎編(2/17開催)・実践編(2/24開催)

国際学会での質疑応答や、海外の研究者とのネットワークづくりに役立つ英会話研修を実施し、のべ28名が参加しました。役立つ会話表現を学び、参加者同士で実践練習を行いました。

研究者のための英語プレゼンテーション研修
基礎力強化編(2/12、2/27開催)・
実践力強化編(2/15、2/27開催)

効果的にプレゼンテーションを進められるスキルの向上を目的に、少人数制で実施し、のべ16名が参加しました。プレゼンテーションに必要な基本概念や発表技法を学び、実践練習を行いました。

ダイバーシティ・マネジメント推進のための意識啓発・環境整備

アンコンシャス・バイアスセミナー(3/26開催)

差別や偏見につながる無意識のバイアスを排除し、多様な価値観を受け入れる環境づくりのために、今話題の「アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)」をテーマに、オンラインでセミナーを開催しました。本学の教職員・学生を中心に85名が参加しました。

スマートラーニング講習会(3/24開催)

いつでもどこでもダイバーシティについて学べる環境を整備し、活用してもらうために、スマートラーニング講習会をオンラインで開催しました。本学の教職員17名が参加し、オンライン授業等の運営での悩みを共有しながら、役立つ知識を学びました。

国際研究活動支援プログラム 利用者の声

Voice

「やれるといいな」が「やってみよう」に
支援プログラムが
新たな取り組みを後押し

申請取り組み

海外の大学の研究者との共同研究を目指した国際的な萌芽的研究活動
～カナダと日本のヘルスケアシステムと患者・市民参画による包括ケアの共通点と相違点～

Q. 国際研究活動支援プログラムを活用して どんなことに取り組んだのでしょうか。

カナダのモントリオール大学が主導する研究グループ「Centre of Excellence on Partnership with Patients and the Public (CEPPP)」のメンバーと、アイルランド国立大学ダブリン校の研究者、本学の教員、大学院生によるオンライン会議を2回、開催しました。今回は海外の研究者との共同研究に向けた最初のステップということで、地域看護や公衆衛生看護を研究する本学の大学院生3人が、高齢者・障害者制度や看護政策の日加比較をテーマにプレゼンテーションを行い、その後、参加者全員でディスカッションしました。また、CEPPPの許可を得て、同グループが開発したケアリング・コミュニティ活動の協働評価ツールの日本版を作成し、地域活動の世話役や支援経験のある専門職の方々に活用可能性について意見を収集しました。

石丸 美奈 先生

大学院看護学研究院
生活創成看護学研究分野
地域創成看護学講座 教授



Q. カナダの研究グループとの会議を企画した きっかけを教えてください。

新型コロナウイルス感染症が感染拡大して以降、私たちは研究活動や教育と並行して保健所の積極的疫学調査の支援をするなど、必死に活動してきました。そうした中、若手看護職のリーダーシップ教育を促す「Nightingale Challenge」が千葉大学でスタートしたと聞き、「大変な時期ではあるが、看護活動についての発信を止めてはいけない」という思いを抱いたことが大きな背景です。直接のきっかけとなったのは、カナダにおけるケアリング・コミュニティ研究の存在を知り、その理念に感銘を受け

P3へ続く>>>

石丸研究室

院生 VOICE

グローバル交流から広がる可能性に期待!

プレゼンテーションに臨んだ3人の院生に、会議の印象や、今回の経験から得た学びについてうかがいました。



「資料を調べるだけではわからない
いつもの気づきを得ました」

博士前期課程2年生
長山 莉久里さん

研究計画の策定とプレゼンテーションの準備の同時進行で毎日てんでこまいでしたが、地域の看護活動という大切なテーマについて学びを深められたのは貴重な経験でした。会議では、「コミュニティ」のように普遍的と思える言葉であっても、国によってニュアンスが異なることを知りました。保健師という仕事も、カナダでは日本のように国家資格に基づく職業ではないといいます。このように、資料を調べるだけではわからないことを海外の研究者と交流を図る中で知った経験は、今後、自分の研究に取り組んでいく上できっと糧になると思います。

「千葉大学で学ぶことの魅力に
あらためて触れた思いです」

たくさんの学びを得るとともに、海外の研究者や患者代表の方と看護という共通のテーマを通じてつながれたことは、私にとってとても有意義でした。英語が本当に苦手で、プレゼンテーションに臨むプレッシャーは言葉で言い表せないほど大きかったのですが、大学が提供している多様なプログラムを活用しながら英文原稿を仕上げ、無事、プレゼンテーションを終えることができたことで、千葉大学で学ぶことの魅力にあらためて触れた思いがあります。そして、支えてくれる先生方がいらっしゃることは学生としての強みだと感じています。



博士前期課程2年生
松浦 めぐみさん



博士後期課程2年生
佐藤 太一さん

「文化の異なる人たちとの討議に
必要なことを学びました」

博士前期課程で履修した「イングリッシュ・コミュニケーション」の学びを活かして、英語でのプレゼンテーションに挑戦してみたいという思いから会議への参加を決めました。実際に海外の研究者と交流してみて、文化の異なる人たちとの討議では、前提となる概念について共通の理解を形成することからはじめる必要があると学びました。最も印象に残っているのは、石丸先生にカナダの方々とのやり取りを見せていただいたことです。これからの自分の研究活動にとって、とても大きな意味を持つことになると考えています。

利用者募集中

R3年度 第2期
国際研究活動支援プログラム
9月8日(水) 締切

>>> P2からの続き

たことです。国際研究活動支援プログラムが実施されるという通知を受けてすぐ、「この制度を活用してカナダの研究者に話を聞きたい」と思い立ち、CEPPPのリーダーに連絡をとりました。

Q. 会議を振り返ってください。

会議の前半では、院生3人がそれぞれの受け持ちテーマについて英語でプレゼンテーションしました。3人も海外の研究者を前に発表するのは初めてでしたが、全員が日加の看護事情の違いをしっかりと伝える素晴らしいプレゼンテーションを披露し、カナダの研究者や患者代表も関心を寄せられました。3人も千葉大学の資源を積極活用して準備に励んでいましたから、その成果がいかに発揮された結果だと思います。ディスカッションでは、私自身、様々な気づきを得ました。地域共生について話し合う中で、カナダでも「互助」に価値をおいていること、しかし、日本のように高齢者や障害者の社会参加と互助が結びついていないことがわかりました。

Q. オンライン交流にどんな手応えを感じましたか。

カナダとアイルランドと日本では時差が13時間ほどあるのですが、それほど離れているにもかかわらず容易に交流の場を持ち、意見を交わせるということを体験的に知ったのは大きな収穫でした。カナダの研究者に「日本との共通点や相違点をもっと知りたいので、会議をまた開催しましょう」と言っていただき、すぐに次の開催予定(7

月)が決まったのもオンライン会議だからこそです。もっとも、国際交流にまだ慣れていないこともあり、失敗もありました。カナダがサマータイム期間に入ったことに気づかずに、会議のスタート時間に遅れてしまって……本当に冷や汗ものでした。こうした失敗を糧に、これからの国際研究活動を良いものにしていかなければいけませんね。



Q. 今回の成果を、今後どのように生かしていくのでしょうか。

今回の会議では、教員と研究室の院生の一部ではありますが一体となって取り組みを進めました。私が重要だと考えているのがこの点で、今後も参加者が全員で取り組むことにより、活動の幅を一層広げ、なおかつ発展させていくことができそうだと、ワクワクしているところです。条件を整えば、カナダの研究者を訪ねて、取り組みの様子を見たり、看護に携わる専門職の方にお話を聞いたりして、ケアリング・コミュニティについての理解を一層、深めたいと考えています。国際研究活動支援プログラムを活用したことによって、「やれるといいな」を「やってみよう」へと発展させることができ、とても満足しています。

英文校閲経費支援制度 利用者の声 (一部抜粋して掲載)

Voice



利用者募集中

R3年度 第2期
英文校閲経費支援制度
9月1日(水) 締切

母国語ではない英語で、結果そのものの意味を、的確に学術的表現を用いて記述することに苦心していましたが、ネイティブスピーカーであり、かつ論文の表現方法に精通した専門家の校閲を受けることで、論文の質が高まりました。(女性研究者)

ネイティブによるチェックを受け、より適切で分かりやすい英語にととのえていただくことができました。また校閲原稿から、自分の間違えやすい点も把握することができ、今後の英語論文執筆にも役立つ示唆を得ることができました。(女性研究者)

本制度があったことで、英文ジャーナルへの投稿に挑戦する契機となりました。論文を複数の校閲者に見てもらうことで、質の向上を図ることができました。(女性研究者)

初めて英文校閲を利用しました。投稿予定の雑誌の要件に沿うように修正され、剽窃に当たらないかも確認してもらうことができ、安心して国際学会誌に投稿することができました。(大学院生)

英文校閲を行ったことで、スペルミスや誤った言い回しだけではなく、英語特有の表現やより簡潔な表現に文章全体を修正していただき、論文の質や信頼性を高めることができました。(大学院生)

初めて執筆した英語論文でしたが、今回支援を受けたことで、より意欲をもって取り組むことができ、無事に論文が受理されました。(大学院生)

文法的に正しい文章になっただけでなく、意味が的確に伝わるような表現に変更され、より読みやすくなりました。文字数削減に苦慮していたので、意味がずれない範囲で削減できたのもよかったです。(大学院生)

INFORMATION

研究者のためのアカデミック英会話 受講者募集中

研究者を対象に、英会話実践力強化のためのオンラインセミナーを実施します。

基礎編 7月30日(金) 13:00～16:00
実践編 8月6日(金) 13:00～16:00

締切 令和3年7月21日(水)



詳細はWEBサイトをご確認ください

URL https://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/diversity2020/info/english_kaiwa2021.html

INFORMATION

第2期 短期研究専念制度 (女性研究者の海外渡航支援プログラム) 利用者募集中

今後の国際共同研究の中心となる研究者を養成するため、女性研究者が海外に渡航し、研究活動を実施するために必要な費用を助成します。45歳以下の若手研究者及び大学院学生を対象とした申請者についても同時募集中です。

締切 令和3年8月19日(水)



詳細はWEBサイトをご確認ください

URL <https://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/diversity2020/info/tanki.html>

INFORMATION

第2期 英文校閲経費支援制度 利用者募集中

准教授以下の女性研究者及び博士後期課程大学院生の国際的な研究活動促進のため、国際学会誌等に英語で論文を投稿する際の校閲経費を支援します。

締切 令和3年9月1日(水)



URL https://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/diversity2020/research/english_reviewer/

INFORMATION

第2期 国際研究活動支援プログラム 利用者募集中

女性研究者が主となって、海外の大学・研究機関等の国際教育研究機関等との連携により実施する研究上の取組、国際集会・セミナーの開催等について、必要な経費を支援します。

締切 令和3年9月8日(水)



URL https://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/diversity2020/info/kokusaikenkyuu2021_2.html

INFORMATION

オンラインコンテンツ公開中!

令和3年3月9日に開催したキックオフセミナーの中から、本事業の取り組み紹介と、ピーター・フランク氏による記念講演の動画(日本語版、英語字幕版)を公開中です。

URL <https://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/diversity2020/environment/contents/>

